

# 事例研究報告

## 小学部低学年知的障がいを併せもつ肢体不自由児の「ペースト食」から「押しつぶし食」への移行支援について

※個人が特定されないように、一部スライドを削除しています。

# 児童の実態

## 1. コンサル前の給食の様子

- ・米飯はおかゆ。パンはパン粉状にし、牛乳100ccとジャムを混ぜたパン粥。
- ・副食はペースト食。
- ・牛乳100ccをコップを使って飲む。
- ・自らスプーンを持って食べようとする動作が見られはじめた。

## 2. 家庭での食事

- ・9ヶ月頃から12ヶ月頃の離乳食(1食分:全粥60~100g、おかず60g、エンシュア100~200cc)
- ・食事に興味がなく、手づかみ食べの経験がない。
- ・飲み込む動作のみで、口の中に固形物が入ることに抵抗が強い。

# 本校の食形態

ペースト食



きざみ食



普通食



## 保護者の願い

- 少しずつ普通食に近いものが食べられるようになってほしい。
- 食事を嫌がらずに食べ、体重を増やしてほしい。

## 教員の願い

- 楽しく食事をしてほしい。
- 柔らかい食材を舌で押しつぶして食べてほしい。

# コンサル前の食事の様子

- ・食べることにあまり興味がない。
- ・ペースト食を飲み込む動きのため、口まわりの動きは見られない。
- ・液体やペースト状の食べ物しか食べたことがないため、固形物が口の中に入ることに強い抵抗がみられる。
- ・自分でスプーンを持って食べる様子がみられはじめた。

## アドバイザーからの助言

第1回コンサルテーション  
6月22日(木)

- 摂食嚥下機能には問題がない。
- 1cm角くらいの大きさ、豆腐くらいの固さ「離乳食中期(7、8ヶ月頃)」の食材を食べる練習を、無理強  
いせずに行う。

# 助言を受けての見直し

## 【給食】

- ・食形態はペースト食を継続。
- ・家庭より離乳食(冷凍20g)を持ってきてもらい、ペースト食とプラスして食べる練習をする。
- ・1cm角の大きさ、豆腐程度の固さの食材を食べる練習を取り入れる。【給食メニューの中から、本児が食べることができる食材(豆腐・煮た野菜等)を取り出す】

# 指導の経過

## 児童の様子(給食時)

### 【1学期】

- ・6月末～ 3mm角食材をペースト食に1～2個混ぜて食べる練習をした。
- ・7月末～ 5mm角食材や普通食のうどん、スパゲティー、カレーを40g程食べる事ができた。

6月末～



7月末～



# 指導の経過

## 児童の様子(給食時)

【2学期】 きざみ食を食べる量が増えてきたため、家庭から持参の離乳食は中止。

・9月～10月 1cm角食材50gを食べることができた。

◎ペースト食のとろみを強くしてもらった。(とんかつソース状→マヨネーズ状)

・11月～12月 1cm角食材150g、カレー、丼物やスパゲティ等の麺類を100g食べることができた。

・パンは1cm角に切ったものを牛乳やジャムとまぜたパン粥に変更した。

9月・10月



11月・12月



# ペースト食と1cm角の食材



# 指導の経過

- ・固形物が口の中に入ることに対して、少しずつ抵抗が少なくなってきた。
- ・舌で食材を押しつぶして食べようとする動きがみられはじめた。(口に入れた食材が細かくなっている)
- ・褒められることで、意欲的に食べようとするが増えた。

## 学校・家庭・社会人講師との連携

- ・毎日、連絡帳等で本児の様子を学校・家庭で伝え合ったり、食事の様子を撮影した動画を見て話し合ったりして、無理のない指導をすすめていった。
- ・社会人講師（フードコーディネーター）に、保護者に向けて「発達段階にあった食事の作り方」等のアドバイスをいただいた。

## アドバイザーからの助言

第2回コンサルテーション  
12月14日(木)

- 1cm角の豆腐や熟したバナナくらいの硬さの食材を、舌で押しつぶして食べる練習を継続し、舌の動きを促す。
- ペースト食では、舌の動きの練習にはならないので、きざみ食へ移行していく。
- 手づかみ食への練習をしていく。

# 指導の経過

- ・ペースト食の量を半分にし、きざみ食の量を増やして食べる練習をすすめた。



# 指導の経過

## 手づかみ食べの練習

- ・手が汚れることが苦手。
- ・歯磨きやスポンジブラシを口に入れることが苦手。
- ・スプーンにのせた食べ物であれば、口の中に入れようとするが、他人の手から口に入れられたり、自ら手で持って口に入れることにはかなりの抵抗がある。



- ①本児の好きなチョコペーストやプリンで練習。
- ②段階を踏んで練習。(スプーン→割り箸→割り箸を使って、本児の手にチョコペーストやプリンを付ける)

# 指導の成果

## ○児童の変容

- ペースト食の食事から、徐々に固形の食材を食べることができるようになり、食べることができる量も増えてきた。
- おでんの大根やスパゲティナポリタンが好き等、本児の好きなものや苦手なものがわかるようになってきた。
- 自らスプーンを持って食べようとすることが多くなった。
- 舌の動きの変化。(前後運動→上下運動ができつつある状態)
- 食事だけでなく、歩行の変化や発語の増加等の成長が見られた。
- 新しいことにチャレンジすることへの抵抗が減ってきた。

# 指導の成果

## ○教職員の変容

- ・「摂食嚥下機能に問題がない」とアドバイザーの先生に言われたことで、固形物を食べる練習に取り組むことができた。
- ・焦って次の段階（食形態）に進んでしまいそうになったが、食事の楽しさを教えることに重きをおいて指導することができた。

# 指導の成果

## ○家庭の変容

- 家庭でも、1cm角の煮た野菜や豆腐等の食材で、食べる練習を継続している。
- 果肉入りヨーグルト、杏仁豆腐、フルーツ等、本児が好きなものを見つけることができた。
- 保護者が本児に、新しいことにチャレンジするよう働きかけることが増えた。

# さいごに

- ・ペースト食から食形態をアップして食べさせることに、若干の怖さがあったが、専門家の先生に「摂食嚥下機能に問題がない」とアドバイスを頂いたことで、指導に踏み切ることができた。
- ・指導に悩んだ時に、たくさんの先生方に相談できたり、アドバイスを頂けたりしたことで、焦らず本児に合った指導を継続させることができた。
- ・給食のメニューによっては、全く食べられないものもあり、本児に合った食形態で練習できればと感じることがあった。